

科目名	担当教員	学期	単位
政治学研究方法（経験）	久米 郁男	前期	2

講義概要 本講義では、実証的な政治分析を行うための方法論を学んだ上で、実際の政治分析を取り上げて、それを方法論的な視点から検討する。

シラバス

- [第1回] 序論 何を避けるべきか
- [第2回] 社会科学的に考える
- [第3回] 社会科学の作法
- [第4回] 社会科学における科学性
- [第5回] 統計分析の考え方：記述統計
- [第6回] 統計分析の考え方：クロス集計と相関
- [第7回] 統計分析の考え方：回帰分析
- [第8回] 演繹、帰納、仮説検証
- [第9回] 中間まとめ
- [第10回] 応用編：ファシズムもまともに持てなかった日本？
- [第11回] 応用編：資本主義の収斂？あるいは民主主義と経済成長
- [第12回] 応用編：二国間比較
- [第13回] 応用編：比較分析の可能性：一国研究
- [第14回] 質的分析と計量分析
- [第15回] 研究デザインの設計に向けて

教科書 高根正昭『創造の方法学』講談社新書
G. キング・R. コヘイン・S. ヴァーバ『社会科学の研究・デザイン』
増山幹高・山田真裕『計量政治分析入門』

参考文献 講義中に指示する。

評価方法 講義は、参加者全員が指定文献を読んでいることを前提に講義と討論形式を併用して行う。報告者はあらかじめ決めずに、その場で指名して報告を行ってもらう予定である。事前に文献の読めていない人の受講は認めないので注意すること。理由の如何を問わず3コマ以上の欠席をした人は評価対象としない。2コマ以内の欠席は、欠席者がその回の文献の要約とレビューを提出した場合、成績評価対象とする。成績評価は、テイク・ホーム試験で行う予定である。

関連URL <http://www.geocities.jp/kumeikuo/>

備考